

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスについて全職員で確認し、理念の共有について再認識を行った。	
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には理念について伝えている。会議の際、理念の共有について確認しケアに活かせるよう意見の統一を図っている。	
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議の場、施設、ホームの広報誌など折に触れ、理念をお伝えしている。毎年こまくさ祭りを小中高校生、地域のボランティアの方々で開催している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物等ですれ違った際は、お互いに声を掛け合える関係が作れている。町会に加入し回覧板を回すなど、地域の行事に参加したり、施設の行事に来ていただいている。また、お花の鉢植えや野菜の差し入れ、花壇の手入れに来て下さる方も居る。	
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での文化祭へ参加したり、三九郎などの行事へも進んで参加している。小中学校、幼稚園児たちと交流している。中学生や地域の方々がボランティアとして来訪してくれている。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方々を対象とした介護教室やおしゃべり会、勉強会を行っている。</p> <p>大学・短大・専門学校の実習や、地域の小・中学校の職場体験学習やボランティア活動など積極的に受け入れている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の意義を全職員で確認、話し合っている。自己評価も全職員で話し合い、評価をつけ評価結果は会議の際に報告し改善に向け取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を開催した際結果を報告し、そこでの意見を今後活かせるよう全職員で話し合っている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日々、市職員との交流があり協働関係を築けている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員に制度についての資料を配布し、会議等の場で学ぶ機会を作っている。また、制度が必要となった際、対応できるようテキストを作成し活用している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修会に参加している。</p> <p>法律について会議等の場で話し合いの機会を作っている。</p> <p>全職員資料を持ち合わせいつでも話し合ったり、勉強できるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		

グループホームこまくさ野村

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じた対応が出来るよう、勤務を調整したり、職員間で話し合いや声掛けを行い、職員の配置を考えている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>顔なじみの関係が崩れないよう出来る限り異動は行っていない。 退職などで職員が変わる際は、新しい職員に馴染むまで引継ぎ期間を取っている。</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時に法人独自の研修を行っている。また、県や他のホームへの研修へ参加できるような機会を設けている。 研修会参加者は会議の場で発表し、全職員が同様に学べる場作りを提供している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームへの見学や、研修を通して交流を持ち、そこでの意見や経験を活かし、サービスの質の向上に励んでいる。 地域のケア研究会へも積極的に参加し、その内容を実践している。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室の設置、楽しめる機会作り(お弁当、外食などの提案)他の事業所との交流親睦の場を作っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻繁にホームへ足を運び、利用者や職員一人ひとりと話しをする機会を作り、業務を把握している。また、職員の資格取得への支援のほか、向上心を持ちながら働けるよう機能評価を行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23 初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前からデイサービス、ショートステイの利用時、来訪していただき、ホームに慣れていただく機会を作っている。また、ゆっくり関わる中で、本人の要望や不安を聞く努力をしている。		
24 初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居前に家族にもホームの様子を見ていただき、現在の様子や入居されてからの要望や不安な事など、直接聴く機会を作っている。 家族の苦労や状況を把握する中で、信頼関係へと繋げる努力をしている。		
25 初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞き、必要であればケアマネージャーや包括支援センターに繋げるなどの対応をしている。		
26 馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム職員が面会に行ったり、入居前よりホームへ来ていただき、見学したり、短時間過す事で、ホーム内の様子や他入居者と顔見知りになれる機会を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者はともに生活しあう仲間と考え、日々の生活の中で一緒に楽しんだり、喜んだり出来る場面を作っている。本人の得意な事など、教えていただく機会が多い。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の状態を互いに把握し、その人らしく生きる支援を家族とともにやっている。ホーム利用により新しい家族関係が安定するよう努めている。</p>	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人の思いや日々の様子の報告、相談を行い、外出、外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めている。 誕生日会など行事に家族をお誘いしている。家族知人にハガキを出し、喜ばれている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>行きつけの美容院へ行ったり、墓参りに出かけたりしている。 家族や知人、友人が気軽に立ち寄っていただけの環境作りを行い、大勢来訪されている。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>皆で一緒に楽しむ時間や、同じ趣味を持った方同士で作業できる機会を設けている。役割活動を通して、より関係作りに勤めている。また、一人で落ち着ける空間、時間作りにも配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事にお誘いしたり、広報誌の送付や手紙のやり取りなど、継続した関係作りが行えるよう心掛けている。		
<p style="text-align: center;"><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>			
33 思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の場面で見られる言動などから本人の思いを知るよう努めている。本人の視点に立って考え、本人に確認できない場合にはご家族などから情報を得ている。		
34 これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や日々の生活の中で、本人や家族から話を伺い、生活歴等の情報を集めている。また、他の部署からも利用時の様子等教えてもらえるよう連携を図っている。		
35 暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムを把握するとともに、本人の出来ることに注目し、その方の全体を把握するよう努めている。		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、日々の生活の中から本人、家族の希望や思いを聞き介護計画に反映している。また、会議での話し合いにより、本人の希望に添うようにしている。		今年よりセンター方式に取り組んでいる。さらに本人、家族の思いや希望に添った介護計画になるよう努めたい。

グループホームこまくさ野村

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間終了前であっても、状態に応じ見直しを行っている。 日々の記録や本人、家族の要望を取り入れ介護計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分量、食事量、排泄、精神状態など、日々の暮らしや本人の言葉、気づきを具体的に記録し、毎日のケア、介護計画に役立てている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別的な買物の支援、受診の付き添いなど、本人、家族の状況に応じ、柔軟に対応するよう努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティア、警察、消防、幼稚園、小中学校などの協力が得られるように話し合いの機会を設け、協力し地域で安心して生活できるよう呼びかけている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容の利用、ボランティアの参加など生活支援のサービスを利用させていただいている。		



グループホームこまくさ野村

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議にセンター職員が参加してくれている事で、関係が強くなっている。地域包括支援センターと情報交換をし、協力関係を築いている。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族が希望されるかかりつけ医となっている。利用者の変化や健康面で心配がある場合、いつでも相談できる関係となっている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医が認知症サポート医療医資格認定医となり、専門医への必要時のコンサルトが、よりスムーズに行われる体制が構築されている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>同一法人クリニックの看護師に24時間いつでも相談できる体制である。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時、利用者の情報等を医療機関に提出し、職員も頻回に見舞いに伺えるようにしている。ご家族とも早期退院に向け相談、話し合いを行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族、医師で十分な話し合いのもと、ホームが対応し得るケアについて説明を行っている。また、状況の変化に合わせ家族、医師、看護師を交え話し合い、方針の統一を図り、家族、本人の思いの支援に繋げている。</p>		

グループホームこまくさ野村

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

グループホームこまくさ野村

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのその日、その時の気持ちを尊重しその人らしく生活が出来るよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>その人が好きな色の服や髪型、毎日のお化粧品等、本人の気持ちに添った支援を心がけている。また、馴染みの美容院へ出かけている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>畑で収穫された野菜等で煮物や漬物を調理したり、利用者の馴染みの料理を職員と一緒に準備から、片付けまで行う中で個々の力を活かしながら楽しみとなるよう努めている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の好きなものをいつでも楽しめるよう支援している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握する事で、その方にあったトイレ誘導を行っている。 医療的介入が必要となった際は、早めに主治医と相談している。</p>		

グループホームこまくさ野村

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望に合わせ、入浴日、入浴時間、入用方法等、対応している。		
58	安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、眠れない方には話をしたり、温かい飲み物を用意したり、足浴を行う等の対応をしている。環境面のアセスメントも適宜行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な事柄を行かせる場面作り、役割など生活に定着している。 畑仕事・漬物など、利用者の経験や知恵を発揮する場面を多く作っている。その他、利用者と相談しながら、外出やレクの機会を作っている。		
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でお金を管理されている方もいる。ホームで管理している方でも日常の買物などで、自ら支払いが出来るよう支援している。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、利用者の状態等に応じ季節を感じ心身の活性につながるよう、日常的に散歩、買い物、ドライブ、外食などに出掛けている。		

グループホームこまくさ野村

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て、墓参りや外食に出かけるなど、本人の希望に添えるよう支援している。 誕生日に回転寿司に行ったり、新そばを食べに馴染みの店へ出かけたりと本人の希望に添えるよう支援している。		
63 電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など、家族や知人に送るよう支援している。 本人の希望に合わせ、家族等にいつでも電話を掛けられるようにしている。 家族と手紙の交換が出来るよう、支援を行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、馴染みの方が多く来訪されている。また、いつでも気軽に来訪して下さるよう声をかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の場を利用し、理解を深めるよう取り組んでいる。		
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。利用者が外出したような様子を察知した場合、声を掛けたり一緒に出掛けるなどの対応を行い、自由な暮らしを支えるよう支援している。		

グループホームこまくさ野村

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>日中はフロア担当の職員が、見守りを行っている。夜間は数時間ごとの様子確認、休憩場所はホールにする、など工夫をしている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>全てを取り除くのではなく、利用者に応じ注意を促すなどの対応をしている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの状態から予測される危険を検討し話し合っている。ヒヤリハット、事故報告書を作成し、今後の対応について可及的防止策について常に話し合っている。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>新人研修の場で、対応について勉強する機会を設けている。 会議の場で、実際に起きた事故の対応など話し合っている。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、近くにある消防署の立会いのもと避難訓練を実施している。 地域との協力体制については、運営推進会議の際に地域の消防、警察の協力を呼びかけている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>起こりうるリスクに対して、利用者の状況により話し合い、家族に対し説明し理解が得られるよう努めている。また、主治医から「死に至る過程」について、適宜家族と話し合いがなされている。</p>		

グループホームこまくさ野村

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>普段の状態を職員は把握しており、様子の変化が見られた時には、バイタルチェックを行うなどし、状況に応じては受診できるよう対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬について説明された用紙の保管を行い、いつでも確認できるようにしている。服薬は個別に対応し、きちんと内服出来ているか確認をしている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>水分の補給、繊維質の多い食材や乳製品などを食事に取り入れるなどをして、出来るだけ自然排便できるよう工夫をしている。また、生活の中で体を動かす機会を作っている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりの能力に応じた対応を行っている。特に就寝前の口腔ケアは、その重要性の理解を職員間で共有している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>チェック表を使用し、水分量、食事量の把握が出来るように対応している。また、個々の嗜好に合わせた食事が、提供できるようにしている。</p>	

グループホームこまくさ野村

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてマニュアルを作成し、全職員で学び予防、対策に努めている。 トイレは次亜塩素酸にて掃除し、利用者・職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や、ふきん等の調理に使用したものは毎晩塩素消毒を行っている。 冷蔵庫内も清掃、消毒を行い、食品や調味料など期限が切れていないか、鮮度状態の点検を行い、処分したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾ったり、利用者の作品の展示などを行い工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る、季節の食べ物、行事など行い家庭的な雰囲気づくりに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や屋上などにも椅子を設け、一人で過せる空間作りを行っている。		



グループホームこまくさ野村

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が使い慣れたタンスや椅子等を自由に持ち込んでいただき、居心地良い空間を作っている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>随時換気を行っている。 冷暖房は利用者の状況に合わせ、こまめに温度を調節するようにしている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>物干しの高さ、流し台の高さなど生活環境を整え、安全確保と自立への支援に努めている。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>失敗の原因を考え、本人の分かる力を見出し、職員で話し合い、自立に向けた環境作りに努めている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>屋上に花を植えベンチを置いたり、畑を確保して利用者が楽しみながら生活できるような環境作りをしている。また、屋上にベンチを置き、外気に触れたり、日向ぼっこできるようにしている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームこまくさ野村

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームでは、利用者にその人らしく生き生きとした生活を送ってもらう為に、今までの生活・人生を基に「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」をケアの基本として、充実した暮らしを大切にその人らしく、最後まで豊かに生きることを支援していきたいと考え取り組んでいる。

今後とも「終の棲家」となりうる利用者の最後の家となれるよう、各方面と協働し、質の高いホームを目指したいと考えている。